

第 409 回 大阪大学臨床栄養研究会 (CNC)

※本研究会は医学系研究科 単位認定セミナーです

日時：令和 5 年 2 月 13 日 (月) 18:00~

場所：大阪大学医学部講義棟 2 階 C 講堂 (吹田市山田丘 2-2)

Zoom によるオンライン同時開催

Web による参加方法は別紙をご参照ください

『スギ花粉米と K15 乳酸菌の連日摂取によるスギ花粉症の症状抑制効果の評価』

大阪はびきの医療センター 主任部長/臨床研究センター長

橋本 章司 先生

【背景】スギ花粉症は 1960 年代に最初の症例が報告され、現在も国民の 70-80%がスギ花粉に感作 (特異的 IgE 抗体の陽性化) され、30-40%が発症していると推測されている。花粉飛散期には患者の QOL や作業効率が著しく低下することで大きな社会的損失が生じ、スギ花粉症の根本的治療法や予防法の開発が強く望まれている。低濃度アレルゲンの皮下・舌下投与が根本的治療法として期待されるが、長期間の継続的な治療が必要であり、重篤な副作用の発生例もある。このため、抗アレルギー作用を持つ機能性食品が期待されており、当センターで実施した『スギ花粉米と K15 乳酸菌の連日摂取によるスギ花粉症の症状抑制効果の評価』について報告する。

【スギ花粉米】農研機構が開発した機能米で、スギ花粉症の主要 2 抗原の 7 箇所 T 細胞エпитープ部分を連結したハイブリッドペプチド (7 CRP) 遺伝子を構築し米に組み込み、胚乳の PB-1 粒子内に高濃度の C7HRP を発現させ、連日摂取で直接腸管への高濃度経口免疫効果が期待される。研究 1 (1 日 20g、5g の花粉米又は対照米を 2016 年 9 月から 24 週間連日摂取、各群 15 名; RCT) で翌春花粉飛散期の症状抑制を証明できなかったが、研究 2 (1 日 5g の花粉米を 96 週間長期摂取、10 名) で 2 年目花粉飛散期より症状と T 細胞増殖反応値の抑制傾向を認め、96 週間目で有意な抑制を認めた。

【K15 乳酸菌】キッコーマン株式会社が開発した乳酸菌株 (*Pediococcus acidilactici*K15) で、小腸の樹状細胞を活性化し抗感染 (Th1 免疫誘導及び IgA 産生誘導) 作用と抗アレルギー (Th1 免疫誘導) 作用を示す 2 本鎖 RNA を大量に含み、連日摂取で効果が期待される。研究 1 (2019 年 9 月より K15 乳酸菌 10mg 又は対照品を 12 週間連日摂取、摂取前後の人工曝露誘発試験の症状で評価、各群 15 名; RCT) で総鼻症状・総症状スコアの総計、鼻汁量等で有意な抑制を認めたが、研究 2 (同 12 月より何れかを 20 週間連日摂取) では翌春の花粉飛散期の症状抑制を証明できなかった。

【考察】両試験品とも安全性・継続性に問題はなかったが、より高いエビデンスを示すためにより大きなサンプルサイズでの評価が必要と考えられた。K15 乳酸菌製剤の評価の途中でコロナ禍を迎え、スギ花粉症を含めた臨床研究における複数の教訓も得られ、ご参加いただく諸先生方と共有したい。

世話人：免疫内科学 檜崎 雅司先生

E-Mail: mnarazaki@imed3.med.osaka-u.ac.jp

次回、第 410 回 CNC は生体情報科学 木原進士先生のお世話で 2023 年 6 月 12 日 (月) 開催予定です

オンラインによる参加方法について

今回は、Zoom を使用いたします。

参加ご希望の方は、下記メールアドレスに ご所属・お名前・ご連絡先メールアドレスをお知らせください。追って、参加方法についてのご案内お送りいたします。

● 申し込み先：jimu@endmet.med.osaka-u.ac.jp

● 申込先：大阪大学大学院医学系研究科

内分泌・代謝内科学 企画室 宛て

● 申込締切：令和 5 年 2 月 8 日（水）16：00 まで

※学生の方へ

オンラインで実施する研究会における出席票の司会者確認印は指導教員印で良いものとされています。